

平成24年度 主要作物施肥基準 JA中野市営農センター

水 稲

★ 土壌分析を実施し、施肥基準を参考に自分の圃場にあった施肥で良品生産・増収を目指しましょう!!
 < 施肥量はあくまでも基準ですので、土壌分析を実施し、土壌条件を確認し、前年の生育状況に応じて加減して下さい。 >

機械苗育苗 (中苗)

種 類	苗代1号施肥量		本田10アール当り必要資材等			立枯病予防農薬 タチガレエース粉剤 (は種当日)
	1箱当り	伏床1㎡当	育苗箱	培 土	伏床面積	
みのる式	0~10g	150~170g	30箱	66ℓ(3袋)	6㎡	1箱当り 3~4g
有 底 箱	30~35g		30箱	150ℓ(6.7袋)	6㎡	” 8g

- は種より7~10日前に肥料を施し攪拌する。肥料入培土を使用する場合は肥料を加える必要がない。
- 床土はPH4.5~5.0に調整しておく。前年に除草剤を使用した土は使用しない。
- みのる式の伏床肥料は表層施肥とする。

(10a当り)

本田 1

(コシヒカリの場合)

肥 料 名	総 量	施 肥 量		成 分 量		
		元 肥	追 肥	N	P	K
BBコシヒカリ用008号	40kg (2袋)	40kg	kg	4.0	8.0	7.2
けい酸加里34	40kg (2袋)	40				8.0
BB粒状NKC-201号	5~10kg(0.25~0.5袋)		5~10	1.0~2.0		0.5~1.0
リンスターケイカル	100kg (5袋)	100			4.0	
合 計				5.0~6.0	12.0	15.7~16.2

- 追肥NKC-201の施用時期が早すぎると倒伏しやすくなるので出穂前18日を基準とする。
- また、肥切れが早く黄化が強い場合は、出穂前20日と10日の2回に分けて施用する。

(10a当り)

本田 2

(コシヒカリ以外のうるち米、
酒米、もち米)

肥 料 名	総 量	施 肥 量		成 分 量		
		元 肥	追 肥	N	P	K
BB粒状複合284号	50kg (2.5袋)	50kg	kg	6.0	9.0	7.0
けい酸加里34	40kg (2袋)	40				8.0
BB粒状NKC-201号	10~15kg(0.5~0.75袋)		10~15	2.0~3.0		1.0~1.5
リンスターケイカル	100kg (5袋)	100			4.0	
合 計				8.0~9.0	13.0	15.5~16.5

- 追肥NKC-201の施用時期は出穂前25~18日を基準とする。

- キヌヒカリの場合追肥NKC-201は出穂前25~15日の間に2回に分けて15kg施用する。(5~7日間隔) (10a当り)

本田 3

(採種の場合)

肥 料 名	総 量	施 肥 量		成 分 量		
		元 肥	追 肥	N	P	K
BBコシヒカリ用008号	30kg (1.5袋)	30kg	kg	3.0	6.0	5.4
けい酸加里34	40kg (2袋)	40				8.0
シリカゲル入NK15	10~15kg(0.5~0.75袋)		10~15	1.5~2.2		0.7~1.0
リンスターケイカル	100kg (5袋)	100			4.0	
合 計				4.5~5.2	10.0	14.1~14.4

- リン酸が不足する場合は「リンスターケイカル」を20kg(1袋)増やして、120kg(6袋)を元肥として施用する。
- 通常栽培より元肥を抑えているため、追肥「イネルギー入NK15」を必ず適期に施用する。
- 追肥「イネルギー入NK15」の施用時期が早すぎると倒伏しやすくなるので出穂前15日を基準とする。
- また、肥切れが早く黄化が強い場合は、出穂前20日と10日の2回に分けて施用する。
- 根張りの充実、倒伏防止、稔実を高めるためけい酸加里特号を出穂前40日に40kg施用する。

(10a当り)

本田省力型

(省力型及び直播栽培の場合)

肥 料 名	総 量	施 肥 量		成 分 量		
		元 肥	追 肥	N	P	K
水稲ワンタッチS100(一般品種)	40~45kg(2~2.25袋)	40~45kg	kg	6.4~7.2	9.6~10.8	6.4~7.2
(コシヒカリ)	30kg (1.5袋)	40		4.8	7.2	4.8
けい酸加里34	40kg (2袋)	40				8.0
リンスターケイカル	100kg (5袋)	100			4.0	
合 計	一般品種			6.4~7.2	13.6~14.8	14.4~15.2
	コシヒカリ			4.8	11.2	12.8

- 水稲ワンタッチS100は緩効性を含んだ肥料で追肥が省略できる省力的な元肥肥料です。
- 全量元肥施肥のため、基本的に追肥はしないが、生育状況によってはNKC201号を出穂前18日を基準に10a当り5~10kg施用する。
- その他の事項については「本田共通事項」に準ずる。

本田共通

- 地力向上を図るため、コーンコブ残さを秋に10a当り1tを目安に積極的に施用する。なお施用した場合は、元肥を2割程度減肥する。(水田によっては、わきやすくなるので注意する)
- 元肥(BBコシヒカリ用008号、BB粒状複合284号、水稲ワンタッチS100)は代かき5日前から植代直前までの間に施用する。
- 根張りの充実、倒伏防止、稔実を高めるため、けい酸加里特号を耕起前に40kg施用する。
- 秋、稲わらをすき込む場合は、フラクサールを10a当り20kg(1袋)散布すると腐熟が促進される。
- リンスターケイカルは速効・緩効性りん酸を含み、不足しているりん酸を補給するほか、けい酸・苦土・石灰・鉄をバランスよく含んだ低コスト・省力土壌改良材です。
- 倒伏の恐れのある場合、軽減剤「スマレクト粒剤」を出穂20~7日前に10a当り2~3kgまたは「ビビフルフロアブル」を出穂10~2日前に10a当り水100~150ℓに75~100mℓを溶いて使用すると良い。「ビビフルフロアブル」は他剤との混用可能。
- 秋落ちしやすい水田は、追肥NKC-201に代えて「シリカゲル入NK15」を10アール当り15~20kg施用する。
- 追肥(本田省力型を除く)は、生育状況に応じて加減する。

★ 土壌分析を実施し、施肥基準を参考に自分の圃場に合った施肥で良品生産・増収を目指しましょう。

作型	肥料名	総量	施肥量				成分量			
			春肥 (被覆直後)	元肥 (立茎開始前)	夏肥 6/下～7/上	秋肥 8/上	N	P	K	Mg
ハウス栽培	野菜一番	140kg (7袋)	40kg	80kg	20		22.4	4.2	5.6	4.9
	アヅミン苦土石灰(粒)	40～60kg (2～3袋)		40～60						4～6
	尿素	20kg (1袋)			20		9.2			
	新有機ハツラツまたは堆肥(コーンコブ牛堆肥等)	200kg (10袋) 4000kg		200 2000kg		2000kg				
	合計						31.6	4.2	5.6	8.9～10.9
作型	肥料名	総量	施肥量				成分量			
			春肥 6/下～4/月上旬	元肥 (立茎開始前)	夏肥 8月上旬	秋肥	N	P	K	Mg
露地栽培	野菜一番	120kg (6袋)	40kg	80kg			19.2	3.6	4.8	4.2
	アヅミン苦土石灰(粒)	40～60kg (2～3袋)		40～60						4～6
	尿素	20kg (1袋)			20		9.2			
	新有機ハツラツまたは堆肥(コーンコブ牛堆肥等)	200kg (10袋) 4000kg		200 2000kg		2000kg				
	合計						28.4	3.6	4.8	8.2～10.2
作型	肥料名	総量	施肥量				成分量			
			春肥	元肥 (立茎開始前)	夏肥 6/下～7/上	秋肥 7/中～8/上	N	P	K	Mg
夏秋どり栽培	野菜一番	160kg (8袋)	40	80kg	20	20	25.6	4.8	6.4	5.6
	アヅミン苦土石灰(粒)	40～60kg (2～3袋)		40～60						4～6
	尿素	ハウスの場合 30kg(15袋) 露地の場合 20kg(1袋)			20	10 20	13.8 9.2			
	新有機ハツラツまたは堆肥(コーンコブ牛堆肥等)	200kg (10袋) 4000kg		200 2000kg		2000kg				
	合計	ハウスの場合 露地の場合					39.4 34.8	4.8 4.8	6.4 6.4	9.6～11.6 9.6～11.6
作型	肥料名	総量	施肥量				成分量			
			春肥	元肥 (立茎開始前)	夏肥 6/下～7/上	秋肥 7/中～8/上	N	P	K	Mg
夏秋どり栽培(省力型)	野菜一番	40kg (2袋)	40				6.4	1.4	1.6	1.4
	スーパーによきによき	140kg (7袋)		140kg			25.2	11.2	5.6	4.2
	アヅミン苦土石灰(粒)	40～60kg (2～3袋)		40～60						4～6
	尿素	ハウスの場合 20kg(1袋) 露地の場合 10kg(0.5袋)				20 10	9.2 4.6			
	新有機ハツラツまたは堆肥(コーンコブ牛堆肥等)	200kg (10袋) 4000kg		200 2000kg		2000kg				
	合計	ハウスの場合 露地の場合					40.8 36.2	12.6 12.6	7.2 7.2	9.6～11.6 9.6～11.6

- 「野菜一番」は硝酸態チッソを含む速効性肥料で元肥と追肥を兼用できる肥料で、土壌分析の結果に基づきリン酸・カリ成分を抑え、不足している微量要素を含んだ塩基バランスの改善につながる土づくりをかねた肥料。N:16%、P:3.5%、K:4%、Mg:3.5%その他けい酸、マンガン、ホウ素を含む。
- アルカリ土壌 (PH6.5以上) の場合は「アヅミン苦土石灰」に代えて「畑のカルシウム」を施用する。
- 定植初年度は化学肥料のみ半量とし、2年目は80%程度の施用とする。
- 春肥はハウスは被覆直後、露地は3月下旬～4月上旬の萌芽前に「野菜一番」を10a当り40kg施用する。
- 元肥は立茎開始 (打切) 10日前～立茎開始 (打切) 前に畦間または畦全体に施用する。
- 草勢維持のため生育状況により薬剤散布とあわせて葉面散布を行う。
(7～8月はアミノメリット特青500倍、9月以降メリット赤300倍)
- 夏肥はハウスでは6月下旬～7月上旬と8月上旬の2回、露地では8月上旬の1回施用する。夏秋どりの場合ハウスでは6月下旬～8月中旬にかけて4回、露地は7月中下旬～8月中旬にかけて3回追肥を施用する。
- 定植2年目の元肥は萌芽前に施用する。
- 「新有機ハツラツ」と堆肥の併用はよりいっそう効果的である。
- 堆肥としてコーンコブ残渣を使用する場合は最低半年以上寝かせてできるだけ完熟させたものを使用する。
- 「野菜一番」に代えて、夏場の追肥を軽減できる従来の「スーパーによきによき」を元肥に施用してもよい。
(ハウスは5袋、露地は4袋、夏秋どりは6～8袋)

※ 立枯性病害対策 (新改植)

- ① 新植のできるは場があれば新植は場を選定する。
- ② 土壌分析は必ず実施する。
- ③ 立枯性病害の発生したほ場では改植をさせ、新植は場を選定する。
- ④ スダックス等の緑肥作物や菌密度低下に有効と思われるそばの作付、あるいは他作物との輪作とする。
- ⑤ 湿害による影響が大きいため、新植は場を含め排水対策、暗きよ、明きよを必ず実施する。
- ⑥ ほ場間の伝染防止のため、ロータリーを洗浄してから耕起する。
- ⑦ 地下水位の高いほ場や滞水しやすいほ場は定植時高うね栽培とする。
- ⑧ 品種ガインリは特に湿害に弱いので注意する。
- ⑨ フザリウムによる立枯性病害の発生が心配されるほ場では、定植前に土壌を採取し土壌生育診断を実施する。

— J A中野市では排水改善策として高うね用マルチャー、溝掘機を貸出しますのでご利用下さい—

JA中野市オリジナル新肥料

◎野菜一番（アスパラガス及びアスパラガス以外の野菜専用肥料）

従来の専用肥料「スーパーによきによき」が開発から4年経過し、より中野市の土壌の実態に合わせた低コストで通常の施肥体系に基づいた肥料を開発。（元肥施用での夏場の追肥は省略できません。）

【成分】

チッソ：16%、リンサン：3.5%、カリ：4%、苦土：3.5%、マンガン：0.4%、ホウ素：0.2%

【特徴】

- ①チッソ成分のうち、硝酸態チッソが約50%含まれていますので、元肥施用ではすばやく初期生育を高め、追肥肥料としても効き目が早いめ適します。
- ②土壌分析の結果に基づき特に過剰なリンサン、カリ成分を抑え、不足がちな苦土、けい酸、マンガン、ホウ素等の微量要素を含んだ土づくりをかねた肥料です。
- ③リン酸やカリの高いほ場でのアスパラガスやアスパラガス以外の野菜に好適で、この肥料を連用することにより、土壌中の塩基バランスの改善につながります。
- ④散布量は、従来の元肥（スーパーによきによき）と同様チッソが高成分のため、施用量の軽減が図れる低コスト肥料です。

◎新有機ハツラツ（総合土づくり肥料）

今まで使用してきた「有機ハツラツ」をさらにグレードアップさせ、不足しがちな苦土を補い、有機物の補給、土壌物理性の改良、有用微生物の増殖を図るため開発した有機50%入総合土づくり肥料。

【成分】

チッソ：1.5%、リンサン：2.0%、苦土：5.0%

【特徴】

- ①有機物は菜種粕、米ぬか、シンボルTなど良質な有機質が50%以上含まれており、微生物の増殖と土壌の物理性の改善が図れる。
- ②ゼオライトを含んだ腐植酸（ふりかけ君Z）により保肥力、地力の向上と腐植を増やして土壌を団粒化するシンボルTを含む。
- ③不足しがちな苦土と微量要素の補給として、苦土の源さん、マルチサポート、サンライムを配合。特に苦土は肥効のおだやかに溶け成分が5.0%と高濃度含まれており、りん酸の肥効を高める相乗的な効果が期待できる。

新改植時の土づくり

土壌分析を実施し、自分の圃場に合った施肥で良品生産・増収を目指しましょう。

施肥基準

アヅミン苦土石灰 100～150kg
ようりん 60～100kg
野菜一番 40kg
堆肥 最低 10t
(コーンコブ牛堆肥、コーンコブ残さ等)
または 新有機ハツラツ 500kg

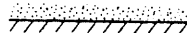
水田転作や酸性土壌の場合はアヅミン苦土石灰に代えて炭酸苦土石灰を200kg散布する。

- ブラウ耕で、深さ40cm位にアヅミン苦土石灰(炭酸苦土石灰)とようりんの半量と堆肥の全量を施用し、ロータリー耕うんする。
- ロータリー耕うん後、アヅミン苦土石灰(炭酸苦土石灰)とようりんの半量を施用し、「野菜一番」は溝植（マルチ内）施用し、うねを立てる。
- 地下水位の高いところは、作土層までの処理とする。
- 改植で改植出番（活性炭HJA-40Y）を施用する場合は炭酸苦土石灰の施用量を減ずる。（半量程度）
- 春植えの場合は「野菜一番」を10a当り30kg（1.5袋）を7月上旬と8月上旬の2回に分けて追肥する。

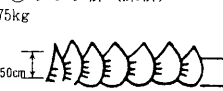
ブラウ耕とバックホーを利用した土作り例

① 土壌改良剤1/2全面散布

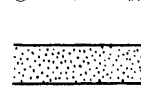
アヅミン苦土石灰 50～75kg
(苦土石灰 100kg)
ようりん 30～50kg



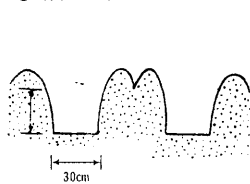
② ブラウ耕（深耕）



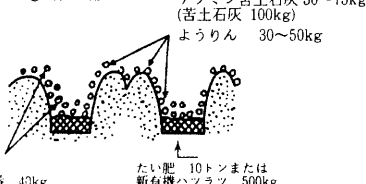
③ ロータリー耕



④ 溝切り（バックホー・トレンチャー）



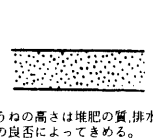
⑤ 施肥



⑥ 埋め戻し



⑦ ロータリー耕



※ 新植にあたっての注意点

- ① 地下水位の高いほ場や滞水しやすいほ場は排水対策、暗渠・明渠を実施する。
- ② 作業性、水利の便を考慮して畑を選定する。
- ③ 極端な砂地や酸性土・耕土の浅いところは避ける。

※ 改植にあたっての注意点……アスパラガスを栽培した土壌には、次作のアスパラガスの生育を抑制させる物質（アレロパシー物質）が存在し、アスパラガスには連作障害の症状があると考えられます。

- ① 最低1年位はスタックス等の緑肥作物を作付し、土づくりの期間に充てる。（10a当り播種時期5月中旬～7月下旬）
- ② 前作の根が多く残っていると生育抑制程度が大きいため、可能な限り抜根し、株・根を圃場外へ持ち出す。
- ③ アレロパシー物質は水溶性なので、水の掛け流し加水張りをする。
- ④ 輪作する。（ナス科、キク科以外の他作物かスタックス、ソルゴー、セスバニア等の緑肥栽培）
- ⑤ 地下水位の高いほ場や滞水しやすいほ場は排水対策、暗渠・明渠を実施する。
- ⑥ 有機物を施用する。（微生物による忌地物質の無毒化・分解促進）
- ⑦ 定植位置を前作の通路へ変更する。（前作の通路より畦中央の土壌にアレロパシー物質が多い）
- ⑧ 改植出番（活性炭HJA-40Y細粒）を定植前に10a当たり100～120kg（5～6袋）全面散布し、作土と十分攪拌する。
- ⑨ 茎枯病が多発しやすいので、定植1年目から防除を徹底するか、2年くらい作付を見合わせる。

夏秋きゅうり

(10アール当り)

★ 土壌分析を実施し、施肥基準を参考に自分の圃場に合った施肥で良品生産・増収を目指しましょう。

肥 料 名	総 量	施 肥 量		成 分 量			
		元 肥	追 肥	N	P	K	Mg
野 菜 一 番	80kg (4袋)	80kg		12.8	2.8	3.2	2.8
ダブルクイック660	60kg (3袋)		60kg	9.6	3.6	6.0	
スーパーロング424 (70日タイプ)	100kg (10袋)	100		14.0	12.0	14.0	
けい酸加里34	40kg (2袋)	40				8.0	1.6
活性炭(アミノ酸入)	60kg (3袋)	60					
マグゴールド	15kg (1袋)	15					9.0
新有機ハツラツまたは 堆肥(コーンコブ牛堆肥等)	300kg (15袋) 4000kg	300 4000					
合 計				36.4	18.4	31.2	13.4

- 「野菜一番」は硝酸態チッソを含む速効性肥料で、元肥と追肥を兼用できる肥料で土壌分析の結果に基づきりん酸、カリ成分を抑え、不足している微量要素を含んだ塩基バランスの改善につながる土づくりをかねた肥料です。N:16%、P:3.5%、K:4%、Mg:3.5%その他けい酸、マンガン、ホウ素を含む。
- 「マグゴールド」はく溶性苦土60%を含み、長期間に渡り作物の根に吸収されやすい粒状の水酸化苦土肥料で不足しがちな苦土の補給とPHの矯正(アルカリ分85%)効果があります。アルカリ土壌(PH6.5以上)の場合は「マグゴールド」に代えて「硫酸マグネシウム」を施用する。
- 「新有機ハツラツ」または「堆肥(コーンコブ牛堆肥等)」は耕起前に全面施用する。また、耕起は早目に深く行うこと。
- 堆肥以外の元肥の半量は全面施用し、残りの半量は植溝施用とする。
- 追肥は、草勢の状況に応じて、ダブルクイック660を10a当り1回につき12~18kgを施用する。または野菜一番でもよい。(目安 7月下旬より10日~14日間隔) N:16%、P:6%、K:10%
- 中期以降の草勢維持のため生育により薬剤散布とあわせて葉面散布あるいは土壌かん注を行うと効果が高い。(葉面散布はアミノメリット特青500倍またはハイブログリーン500倍、土壌かん注はハイブログリーン300倍とアクション300倍を1株1ℓ)
- スーパーロング424(70日タイプ)は、施用後30日頃から効き始め以降約90~100日間の長期にわたって肥効が続く効率的で省力的な肥料です。
- 活性炭(アミノ酸入)は、苦土、マンガン等の微量要素を含むほか、発根、活着等の生育促進効果と土壌微生物の増殖が図られます。
- 「新有機ハツラツ」と堆肥の併用はよりいっそう効果的である。
- 立枯性疫病の発生しやすい場合は土寄せ時にネオカルオキノ粒剤を10a当り20kg施用する。

シャクヤク

(成園10アール当り)

肥 料 名	総 量	施 肥 量				成 分 量		
		春 肥	夏 肥①	夏 肥②	秋 肥	N	P	K
有機オール8号	240kg (12袋)	60kg	140kg	40kg	kg	19.2	19.2	19.2
炭酸苦土石灰	100kg (5袋)				100			
新有機ハツラツ または 堆 肥	100kg (5袋) 2000kg				100 2000			
合 計						19.2	19.2	19.2

- 2~4年生株は上表の70%とする。
- 炭酸苦土石灰は土壌酸度に応じ増減する。
- 春肥は雪解け直後に、夏肥①は切花終了直前にそれぞれ施す。(ハウス栽培ではサラベルなど軟弱になりやすい品種は春肥を施用せず夏肥①にあわせて施用する。)
- 夏肥②は8月上旬に施す(ハウスは7月上旬)。秋肥は茎葉刈取り後に施す。
- 収穫2週間前(芽かき直後)にメリット赤600~800倍を10a当り300ℓ散布すると花蕾伸び、色上がりが良くなる。
- 芽かき直後葉先が黄変する場合は、スィカル500倍を10a当り300ℓ散布する。
- 総合土づくり肥料「新有機ハツラツ」は良質な有機物、腐植酸、シンボルT、苦土、ミネラル等のバランス良い配合により地力を高め、微生物の増殖と土壌物理性の改善を図ります。
- 「新有機ハツラツ」の代わりに「堆肥」2tを施用してもよいが、併用するといっそう効果的である。

トルコギキョウ

(10アール当り)

肥 料 名	総 量	施 肥 量		成 分 量		
		元 肥	追 肥	N	P	K
有機物語684	80kg (4袋)	80kg		4.8	6.4	3.2
サンライムプラス(粒)	80kg (4袋)	80				
マイティー黒ぐろ	160kg (8袋)	160		9.6	6.4	3.2
樹皮堆肥	3,000kg	3,000				
合 計				14.4	12.8	6.4

- 定植後、活着の悪い場合はくみあい液肥2号またはメリット青600~800倍を10アール当り600ℓを1週間間隔で2~3回散布する。
- サンライムプラスの施用にあたって、PHの高い圃場では土壌酸度に依りて増減する。
- マイティー黒ぐろは、3要素成分(窒素6%・リン酸4%・カリ2%)の他おだやかな肥効を示すく溶性の苦土が5%、花にかかせないマンガン、ホウ素など微量要素を豊富に配合されており、高品質生産に期待が持てます。
- 樹皮堆肥に代えてエアポイント540kg(1袋18kg)又はエコマッシュ1000ℓ(1袋40ℓ)を施用しても良い。
- 着蕾以降、メリット赤600~800倍又はボロンセブンを1000倍1週間間隔で2回散布する。
- 定期的に土壌検査を実施し、畑に合った施用を目指す。